奥泉光×いとうせいこう

文芸漫談

in成城ホール

主催●成城ホール（アクティオ株式会社）企画製作●舞台よろず相談所 K・企画

次回シーズン4　第9回

夏目漱石『こころ』

2013年

9月27日(金)

開場 19:00 開演 19:30

会場 成城ホール

料金 2500円(全席自由)

※開演の1時間前より入場整理券を発行します

チケットのご予約・お問い合わせ

K・企画

TEL&FAX 03-3419-6318

HP http://k-kikaku1996.com

E-mail bungeicomic_4@k-kikaku1996.com

成城ホール

TEL 03-3482-1313

HP http://www.seijohall.jp

※窓口販売は200円割引でご購入いただけます

イープラス※200円割引でご購入いただけます

HP http://eplus.jp/

電車：小田急線「成城学園前駅」下車 徒歩4分

バス：成01・02・04・05・06・歳20・21「成城学園前駅西口」下車 徒歩5分

渋24・都立01・等12・用06・玉07「成城学園前駅南口」下車 徒歩4分

強調しておくが、我々コンビは笑いと同様、文学に対しても真摯であり続けた。なにしろ『文芸漫談』というくらいだ。文学をおろそかにしては成り立たない芸である。

普通、文学入門書は、〝グングン文学がわかる〟のが取り柄だが、我々はグングンだけではどうも満足出来ない。理解の速度も重要ではありながら、納得の瞬間ごとにクスクスと笑いが生じないことには、文学の根幹が貧しくなってしまうのではないかと我々コンビは心配しているのである。

豊かな文学、とよく人は言う。けれども、何がどう豊かであるべきかを示す者はまれである。少なくとも我々は、文学を語ることが同時に笑いを呼ぶという事態を希求した。それこそが豊かさのあり得べき具体例だろうと考えたからに違いない。

（『文芸漫談 笑うブンガク入門』いとうせいこう氏 まえがきより）

小説の書き方・読み方がクスクスわかる

ここ数年、書店を訪れると、「小説の書き方」といった類の本がやたらと眼につくのは、小説を読みたい人より、小説を書きたい人の方が多いという、時代の趨勢のなせる業なのであろう。

実際に観客を前に話をしているときには、「入門書」を作ろうとの狙いが殊更にあったわけではなく、とりあえず「小説」ないし「文学」を題材に、いとうさんと二人、お客さんの反応を窺いつつ、あれこれ話すのが馬鹿に面白いので、機会を捉えてはどんどん喋っただけの話である。

どちらにしても、面白いのは、やはりライブである。少なくとも喋っている本人たちにとってはそうである。そして、演じる者が楽しめないのでは、観客だって楽しくないという、ジャズのセッションと同じ原則の下で「漫談」は行われた。だから、本書を読んで少しでも面白いと思って下さった方は、是非ともライブにいらして欲しいと思います。

（『文芸漫談 笑うブンガク入門』奥泉光氏 あとがきより）

【いとうせいうこう】
1961年、東京生まれ。早稲田大学法学部卒業。作家、クリエーター。近畿大学教授。主な小説に『ノーライフキング』『ワールズ・エンド・ガーデン』『解体屋外伝』『豊かに実る灰』『波の上の甲虫』『想像ラジオ』、主なエッセイ集として『ボタニカル・ライフ』『自己流園芸ベランダ派』などの他、舞台・音楽・テレビなどで活躍。
HP http://www.cubeinc.co.jp/ito/

【奥泉光】
1956年、山形生まれ。国際基督教大学大学院修了。小説家・近畿大学教授。主な小説に『ノヴァーリスの引用』『「吾輩は猫である」殺人事件』『鳥類学者のファンタジア』『新・地底旅行』『神器 軍艦「橿原」殺人事件』『シューマンの指』『桑潟幸一准教授のスタイリッシュな生活』『虫樹音楽集』などがある。1993年『石の来歴』で第110回芥川賞受賞。
HP http://www.okuizumi.com/

北沢タウンホールでおこなった「文芸漫談」シーズン2待望の単行本化
『世界文学は面白い。文芸漫談で地球一周』 奥泉光×いとうせいこう
集英社刊 定価1,680円 好評発売中